

学 会 報 告

水田農業のもつ多面的機能と ASEAN諸国における効果 に関する国際会議

矢部 光保

2003年11月10日、フィリピンのケソンシティにある土壤水利管理局において、「水田農業のもつ多面的機能と ASEAN 諸国における効果に関する国際会議」と題したシンポジウムが開催されました。これは、我が国農林水産省、アセアン事務局、東南アジア国際農学会そしてフィリピン農業省の共催でした。

この会議では、最初、政策研も参加して農林水産省が作成した多面的機能の広報ビデオが20分ほど放映され、多面的機能の考え方やその発現事例、またその経済評価について紹介されました。会場には、主にフィリピンの行政官や研究者を中心に200人程の聴衆がいましたが、多面的機能という言葉をはじめて聞く人も少なからずいたため、このビデオは分かりやすい導入になりました。そして、これを受けて、アセアン事務局やフィリピン農業省高官から基調講演がなされました。

コーヒーブレイクの後、研究的シンポジウムとなり、まず、筆者が多面的機能の経済学的概念と評価手法、そして我が国での研究事例を中心にプレゼンテーションを行いました。そもそも、筆者がこのシンポジウムに参加することになったのは、2000年から始まった、日アセアンの共同プロジェクトによる「農業の多面的機能に関する計量的調査研究・普及事業」に専門家として参加してきたためです。特に、フィリピンに関しては、世界遺産にも指定されたイフガオの棚田について、トラベルコスト法や仮想評価法（CVM）を用

いて、土壤水利管理局の研究者が環境価値を評価するにあたり、指導・助言を行ってきており、その繋がりもあって、今回、招聘されました。

この後、土壤水利管理局のサマル研究員から、「イフガオ棚田維持と保全のための支払意志額」と題した研究報告が行われました。同研究員は日本の研修プログラムによって2003年に数ヶ月間、筑波や東北農業研究センターに滞在したこともあり、大変親日的な方です。同研究員ほか、土壤水利管理局の研究者で、この会議の出発点ともなった日アセアン多面的機能プロジェクトの参加者のうち、少なくとも2人の方が、それぞれ中期と長期の研修で日本に滞在していました。このことは、同プロジェクト推進にあたり、研究協力関係を築く上で、大いに助けになりました。

サマル研究員の報告の後、さらに、土壤水利管理局の局長から、イフガオを中心に、フィリピンにおける多面的機能研究の現状と展開方向について報告がありました。そして、フィリピン大学の自然系、社会系の教授らからコメントを受け、フロアーからの意見を交えて総合討論を行いました。

ところで、このイフガオの棚田はフィリピンにおいて、どれだけの価値があるものであろうか。右の写真をご覧ください。フィリピンの最高額面の1000ペソ紙幣にも印刷されているイフガオの棚田です。フィリピン人の平均的な1日当たり所得が250ペソですから、1000ペソは4日分の所得に相当します。つまり、日本で言えば、10万円札に印刷されるような象徴的な景観といったところでしょうか。このように、イフガオの棚田は、フィリピンにとって高い歴史的文化的価値を有するものであり、それは2千年におよぶ農の営みから生まれてきた価値と言えるでしょう。



この写真は <http://www.interq.or.jp/asia/papro/> からの引用です（2004 年 4 月 22 日）



< 写真の説明：この写真はイフガオの棚田を撮影したもので、この角度からの風景はフィリピンの最高額面の 1000 ペソ紙幣にも印刷されています。フィリピンに行かれたおりには、是非、紙幣の図案と見比べてください。>